

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、情報の提供などを行い、また、研究委員会の下で震災復興のための農村計画研究や放射性物質で汚染された農地の復旧技術研究を進めてきました。1月から、農林水産省の農地除染対策実証事業にも技術検討委員会を編成して参画しています。

今後とも会員諸氏が専門的な科学技術の知見を活かし被災地の復興に積極的に貢献されることを期待しております。東日本大震災に関する活動をされた会員は、学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) あてに情報提供をお願いします。寄せられた提言や情報を災害対応特別委員会の活動に反映するとともに、学会ホームページや学会誌などで公表し、会員間の情報共有と一層の社会貢献に努めます。

会 告

○会員の皆様へ異動情報提供のお願い	68
○平成 24 年度農業農村工学会大会講演会の開催について  参加申込締切 8 月 10 日	68
○平成 24 年度農業農村工学会大会講演会企業展示および広告掲載のご案内	70
○平成 24 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について (再) 申請締切 4 月 27 日	70
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	71
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	71
○論文集の電子投稿・査読システムの運用開始について (予告)	71
○CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を! (再)	72
○CPD 利用料の改定と学会員の割引について (再)	72
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	72
○平成 25 年の表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日	73
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	74
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	75
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	75
学会記事	77

第 80 巻第 4 号予定

展望：東日本大震災から一年をふり返って：青山咸康

小特集：「東日本大震災の発生から 1 年 (仮)」

- ①東日本大震災に対する災害対応特別委員会の対応：松本精一ほか
- ②東日本大震災からの復旧・復興－国からの報告－：齋藤晴美ほか
- ③東日本大震災による岩手県の被災と復興方針の概要：岩手県農林水産部
- ④東日本大震災による宮城県の被災状況と対応：雫石和男ほか
- ⑤東日本大震災による福島県の被災状況と対応：渡部幸英
- ⑥東日本大震災に対する水資源機構の対応：仰木文男ほか
- ⑦東日本大震災に対する農村工学研究所の対応：高橋順二

技術リポート

北海道支部：地下灌漑を活用した乾田直播栽培の効果：小杉 裕
関東支部：周辺環境への影響を最小限にした中性系可塑性充填材：田中 徹
京都支部：修正重み付け関数法を用いた暗渠排水管の適正配置：間島貴広ほか
中国四国支部：農道整備における希少種保全への取組み：北島正照ほか
九州支部：白石平野を守る排水機場群のストックマネジメント：大宅公一郎ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成24年9月 18～20日	大会運営委員会	平成24年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	札幌市	79巻12号 80巻1号

会員の皆様へ異動情報提供のお願い

例年、4月には転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするため、学会に登録されている会員データに変更が生じる場合は、ご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、

連絡委員にその旨、お申し出下さい。

それ以外の学会誌を自宅等で直接お受取りの方は、学会事務局までご連絡下さい。

詳しくは、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の◆農業農村工学会について>★入会・退会手続き、会費について>個人情報の変更(異動、転居等)をご覧ください。

平成24年度農業農村工学会大会講演会の開催について

平成24年度農業農村工学会大会運営委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成24年度農業農村工学会大会講演会は、平成24年9月18日(火)～20日(木)の3日間、札幌市の北海道大学にて開催します。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

講演会での講演申込みについては、本誌2012年1月号会告を、会場設備や発表プログラムの詳細等については統報(本誌6月号)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

《ご注意いただきたい点》

- 平成24年8月10日(金)までに参加申込みをいただき、8月27日(月)までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。
- 8月10日(金)までに事前参加申込みをされた方には、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。
- 印刷製本版の講演要旨集は、本大会では8月10日(金)までにお申し込みいただいた方の人数分しか作成しません。締切日以降のお申し込みはできません。
- プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを集録した大会概要集を、大会当日、受付にて参加者全員にお渡しします。
- 事前参加申込みは、ホームページで受け付けます。農業農村工学会のホームページをご参照のうえ、ご利用下さい。FAXでの申込みも可能です。

1. 開催要領

- (1) 開会式典および学会賞表彰式：

9月18日(火) 13:00～

会場：北海道大学高等教育推進機構 大講堂
札幌市北区北17条西8丁目

- (2) 交流会：9月18日(火) 18:30～

(時間は多少前後する場合があります)

会場：札幌グランドホテル別館2F グランドホール
札幌市中央区北1条西4丁目
☎011-261-3311 (ホテル代表)

- (3) 講演会：9月18日(火)、19日(水)、20日(木)

会場：北海道大学高等教育推進機構 E棟
札幌市北区北17条西8丁目

詳細はプログラムとともに本誌6月号に掲載します。

2. 申込方法

参加申込みは、ホームページにて受け付けます。FAXでの申込みも可能ですが、業務簡素化のためホームページからの申込みにご協力下さい。なお、電話でのお申込みはご遠慮下さい。

平成24年8月10日(金)までに参加申込みをいただき、8月27日(月)までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。

事前参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、メールまたはFAXにて速やかにお申し出下さい。ただし入金期限の8月27日(月)以降の払戻しはいたしません。

- (1) ホームページによる申込み

農業農村工学会のホームページからお入り下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/sapporo-taikai/>

(2) FAXによる申込み

下記宛にお申し込み下さい。

(株) 近畿日本ツーリスト北海道 札幌法人旅行支店
「平成 24 年度農業農村工学会大会講演会」担当デスク
FAX 011-280-2732

3. 支払方法

お支払いは銀行振込、クレジットカードによるお支払いのいずれかをお願いします。8月10日(金)の事前参加申込み終了後に、参加申込み状況とお支払いに関する書類(申込み確認書)を送付します。

●銀行振込の場合

申込み確認書で連絡する指定口座へ8月27日(月)までにお振り込み下さい。振込手数料は振り込まれる方がご負担下さい。8月10日(金)までに参加申込みをされても、8月27日(月)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日参加扱いの参加費を申し受けますのでご注意ください。

●クレジットカードの場合

事前にご登録いただいたカードに対して、申込み確認書送付後の8月下旬に課金いたします。詳細に関しては参加申込みホームページをご覧ください。

●公費・会社経費などによるお支払いにも対応いたします。

詳細は 10. (2)の大会事務局までお尋ね下さい。

4. 講演要旨集について

CD-ROM 版講演要旨集は、参加者全員にお渡しします。参加申込みを8月10日(金)までにされた方には、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集は、本大会では8月10日(金)までにお申し込みいただいた方の人数分しか作成しません。締切日以降のお申込みはできません。印刷製本版の講演要旨集を申し込まれた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし要旨集の事前送付を希望される方には、1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。参加申込みの際にその旨を指定して下さい。

なおこれらとは別に、プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを集録した大会概要集を、大会当日受付にて参加者全員にお渡しします。

5. 参加費用

(1) 大会参加費用と内容

申込区分	事前参加申込み	当日参加
一般	5,000円	8,000円
学生	3,000円	5,000円
印刷製本版講演要旨集	6,000円 希望者のみ	受け付けません
印刷製本版講演要旨集 事前送付送料	500円 希望者のみ	受け付けません

(2) 交流会参加費：一般 6,000円、学生 3,000円

6. 昼食

会場には北海道大学生協などが運営する食堂・売店施設があります。どうぞご利用下さい。昼食のお弁当は手配いたしません。

7. 託児室について

北海道大学構内にある非認可保育施設の利用を検討しています。希望者は 10. (2)の大会事務局にお問い合わせ下さい。

8. 宿泊施設・航空券などの斡旋

大会事務局では斡旋しません。各自で手配をお願いします。なお、参加申込みホームページには受付業務を委託する(株)近畿日本ツーリスト北海道による旅行プラン案内がリンクされています。詳しくはホームページをご覧ください。

大会期間中、札幌では大規模な医学系学会の大会が予定されています。また観光シーズンでもありますので、お早めの旅行手配をお勧めします。

9. 会場までの交通案内

(1) 開会式・表彰式・講演会会場：

北海道大学高等教育推進機構

札幌市北区北17条西8丁目

(<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.asp>)

地下鉄南北線「北18条駅」下車、西へ徒歩約10分。

JR札幌駅北口より徒歩約30分。タクシー約10分(大学北13条門より入構の場合、タクシー料金のほかに入構料300円が必要です)。

会場周辺には来訪者用の駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。

(2) 交流会会場：

札幌グランドホテル別館2F グランドホール

札幌市中央区北1条西4丁目

(<http://www.grand1934.com/access/index.html>)

開会式・表彰式・講演会会場から：地下鉄利用

地下鉄南北線「北18条駅」→真駒内方面行き「さっぽろ駅」下車、徒歩約10分。「大通駅」下車、徒歩約5分。

さっぽろ駅から大通駅には札幌駅前通り地下歩行空間があり、ホテル専用入口につながっています。

交流会場への送迎バスは運行しませんので、地下鉄などをご利用下さい。

10. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

(株) 近畿日本ツーリスト北海道 札幌法人旅行支店

「平成 24 年度農業農村工学会大会講演会」担当デスク

〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目

日通札幌ビル6階

☎011-280-8855 FAX 011-280-2732

E-mail : s-convention-l@or.knt-h.co.jp

(営業時間：月～金 9：00～17：45 土日・祝祭日は休業)

- (2) 大会全般に関する問合せ（公費・会社経費などによるお支払い、託児室，など）

平成 24 年度農業農村工学会大会事務局

担当 柏木淳一

北海道大学大学院農学研究院土壌保全学研究室

〒060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

E-mail : jsidre2012sapporo@agr.hokudai.ac.jp

11. 大会運営委員会

委員長 辻 修

帯広畜産大学地域環境学研究部門地域環境工学分野

平成 24 年度農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載のご案内

平成 24 年度農業農村工学会大会運営委員会

来る平成 24 年 9 月 18 日（火）～20（木）に札幌市において開催される，平成 24 年度農業農村工学会大会講演会では，例年と同じく企業展示会場を設ける予定です。展示を希望される企業・団体様は，下記までご連絡下さい。展示スペースについて詳細が決まり次第，折り返しご連絡を差し上げます。なお，展示スペースには限りがあるため，ご連絡いただいた方々すべてに出展していただくことができない場合があります。あらかじめご了承下さい。

また大会の全参加者に配付する大会講演会概要集には，広告ページを確保する予定です。概要集に広告の掲載を希望される企業・団体様は，同様に下記までご連絡下さい。なお企業展示

にお申し込みいただいた企業・団体様には，概要集の広告ページを無償で提供いたします。

平成 24 年度農業農村工学会大会講演会のホームページに，企業展示と広告についての情報を掲載しております。学会ホームページのリンクからご参照下さい。

企業展示・広告に関する連絡先：

平成 24 年度農業農村工学会大会運営委員会 展示担当
〒062-8602 札幌市豊平区平岸 1 条 3-1-34

(独) 土木研究所寒地土木研究所水利基盤チーム 中村和正

E-mail : 2012taikai-tenji@ceri.go.jp

☎011-841-1764 FAX 011-842-9173

平成 24 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）

学術基金運営委員会

農業農村工学会では，平成 3 年度に学術基金制度を設け，毎年援助事業を実施してまいりました。

平成 24 年度は，規程第 4 条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」，(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」，(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は，学会ホームページで申請書をダウンロードして，E-mail で学会事務局あてお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む），または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成 24 年度中（平成 24 年 4 月から 25 年 3 月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお，自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし，発表が国際会議の主催者から受理されていなくても，申請は受け付ける。

この場合，援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1 件当たりの援助金の目安

1 件 15 万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成 24 年 4 月 27 日（金）

5. 報告の義務

援助を受けた者は，調査・研究，または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成22年度までに56件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail: saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

論文集の電子投稿・査読システムの運用開始について（予告）

論文集編集委員会

論文集編集委員会では、かねてより検討しておりました電子投稿・査読システムについて、今般、JST（科学技術振興機構）のJ-STAGE3審査投稿システムを導入して運用することとなりました。利用システムは現在世界的に広く普及しているASP（Application Service Provider）のEditorial Managerを利用します。

Editorial Managerはすでに水文・水資源学会や地盤工学会

で導入されているものと同一のもので日本でも実績があります。

現在システムの具体的な構築を行っており、平成24年3月下旬の運用開始を目指して準備を進めております。

運用開始日および投稿方法などの詳細については、学会ホームページで順次ご案内いたします。

なお、本システムの運用開始後は、現在行っている方法での

投稿は受け付けられませんので、ご了承下さい。
また、査読につきましても、電子投稿システムにより投稿さ

れたものについては電子査読システムでの査読となります。ご
協力をよろしくお願いたします。

CPD 研鑽記録提出に当たり Web システム利用を！ (再)

農業農村工学会技術者継続教育機構では、急激な登録者数の増加による研鑽記録審査量の増加や、CPD を取り巻く社会の利用状況の変化に対応すべく、研鑽記録の提出について「Web システム」を、平成 24 年 2 月下旬より導入しました。

Web システムを利用して研鑽記録をご提出いただければ早期に CPD ポイント取得結果を確認することができ、当該年度内であっても証明書の発行が可能となりますので、是非とも

Web システムをご利用下さいませようお願いたします。

なお、当面は従来の Excel 形式での「継続教育記録ノート」の提出も受け付けますが、その場合の審査結果は従来どおり「8 月送付」となります。

詳細については、技術者継続教育機構のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご覧下さい。

CPD 利用料の改定と学会員の割引について (再)

農業農村工学会技術者継続教育機構では、平成 24 年度から、CPD 個人登録者の CPD 利用料を次のように 1,500 円増額させていただき 4,000 円となります。ただし、そのうち農業農村工学会員である方は増額分から 1,500 円を割引いた額の 2,500 円となります。(新規登録時は従来どおり登録料 1,000 円がかかります。)それに伴い、当機構の運営要領を下記のように改定させていただきました。

【技術者継続教育機構運営要領】第 221 回農業農村工学会理事会 (平成 23 年 12 月 13 日) において改定。平成 24 年 4 月 1 日施行。

(CPD 利用料等)

第 6 条 機構の登録者は、次の CPD 利用料を納めなければならない。

- 一 CPD 個人登録者 年額 4,000 円
ただし学会員である者は 2,500 円

また、30 人以上の所属機関において、一括納入する場合の

利用料は、次表のとおりです。

登録区分	平成 24 年度からの利用料	
	CPD 登録者 (非学会員)	CPD 登録者 (学会員)
個人・29 人以下の団体	4,000 円	2,500 円
30 人以上の団体	3,900 円	2,400 円
80 人以上の団体	3,800 円	2,300 円
130 人以上の団体	3,700 円	2,200 円
180 人以上の団体	3,600 円	2,100 円
230 人以上の団体	3,500 円	2,000 円

*同一所属内でも、学会員である CPD 登録者と、学会員でない CPD 登録者で、利用料が 2 通りになる場合があります。

CPD 利用料は 6 月 1 日時点の登録区分に従ってその額を確定いたしますので、農業農村工学会への入会を検討されている方は、5 月までに入会手続きされることをお勧めいたします。(ただし、機構と学会を「同時入会 (登録)」された場合は、6 月 1 日以降であっても割引額を適用いたします。)

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、技術者継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、CPD 単位取得を在宅で手軽に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回 80% 以上の解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。是非、通信教育へご解答をお寄せ下さい。

なお、2012 年 3 月以降、通信教育への解答方法は「Web 上からの解答送信」に限らせていただきます。

1. 解答資格

解答ができる資格としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会および技術者継続教育機構の CPD 個人登録をされていない方は、まず農業農村工学会のホームページから入会申込書をダウンロードし入会手続きを行い、農業農村工学会員番号を取得された後、技術者継続教育機構の Web 画面上から新規登録手続きを行って下さい。

2. 出題方法

出題は 3 カ月前に発行された学会誌の報文等の事実的な内容から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し学会誌上に掲

載します。問題は択一式で、毎回 10 問を出題します。

3. Web 利用登録と解答方法

2012 年 3 月以降、通信教育への解答方法は「Web 上からの解答送信」に限らせていただきます。解答をするためには Web 画面上で「Web 利用登録」をして下さい。(Web 画面上で解答ができるようになるまでには、登録に約 1 週間程度を要します。)「Web 利用登録」をされた約 1 週間後に、Web 画面上で解答画面にアクセスし、正解と思う番号を入力し、送信して下さい。

4. 解答期限

解答期限は「問題掲載月号の翌月末日まで」です。期限を過ぎた解答の受付は一切できませんので、十分ご注意ください。なお、解答期限内であれば、Web 画面上で何度でも解答を

訂正し送信することができますが、その場合は解答期限日の直前に送信をした解答が有効となります。

5. CPD ポイントの採点と取得結果の照会可能時期、およびポイント集計年度区分

採点は解答期限日を過ぎた後に行い、全問正解で 2 CPD ポイント、7~9 問正解で 1.5 CPD ポイントを自動的に登録いたします。取得した CPD ポイントは解答期限日の約 1 カ月後に Web 画面上で確認することができ、CPD 取得証明書の発行が可能です。なお、通信教育における当該年度分 CPD 取得ポイントとは、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月に出題された問題への解答に該当します。

*解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

平成 25 年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 25 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 81 巻 (平成 25 年 1~12 月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影して下さい (サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切

秋季~冬季 平成 24 年 3 月 31 日

春季 平成 24 年 6 月 30 日

夏季 平成 24 年 9 月 30 日

6. 審 査

審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 81 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 25 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金 (1 点につき 3 万円) をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は (社) 農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること (花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ (フィルム、使用

カメラ等), 対象物の固有名称(固有名称), 対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し, 応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお, 原則として, 応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には, 農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上, ご投稿下さい。

学会誌 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
80 巻 4 号 東日本大震災から1年(仮)	公募なし
5 号 土壌保全による環境保全とその評価(仮)	公募終了
6 号 大会関連	公募なし
7 号 東日本大震災関連	公募なし
8 号 アフリカにおける農業・農村整備の現状と課題—TICAD Iからの20年—(仮)	3月26日
9 号 水土・環境観測の最前線(仮)	4月25日
10 号 いま, 大学教育に求められていること(仮)	5月25日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても, 広く募集しておりますので, 学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお, 小特集テーマが仮題となっているものは, 予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は, 刷上り4ページとなっておりますので, ご執筆の際には厳守いただきますよう, お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

80 巻 8 号テーマ「アフリカにおける農業・農村整備の現状と課題—TICAD Iからの20年—」(仮)

1993年にTICAD Iが開催されてから今年で20年を迎えます。TICADとはアフリカの開発をテーマとする国際会議「Tokyo International Conference on African Development(アフリカ開発会議)」の略称であり, 1993年以降, 日本政府が主導し, 国連, 国連開発計画および世界銀行などと共同で5年ごとに開催しています。

1990年当時, アフリカ, 特にサブサハラアフリカにおいて, 1日1.5ドル以下で生活する人々の数は全人口の57%を占めました。2005年には貧困人口は51%まで減少しましたが, 依然

として多くの人々が貧困に苦しんでいます。

2008年に開催されたTICAD IVでは農業分野を含むさまざまな分野の開発支援が表明されました。また食料生産に関しては「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」が設立され, 2018年までにサブサハラアフリカの米の生産量を倍増することを目標に掲げ, 研究・開発が進められています。

本小特集ではアフリカの農業・農村整備の現状と課題, 今後農業農村工学分野が果たすべき役割などについての報文を募集します。

80 巻 9 号テーマ「水土・環境観測の最前線」(仮)

昨今, 水環境, 土壌環境などを計測するセンサー, データロガー, 情報通信機器などは性能, 利便性ともめまぐるしく進歩しています。温度センサー, 土壌水分センサー, データロガーなどは低価格化が進み, 簡易な水土・環境の観測やモニタリングは低コストかつ低労力で実施できるようになっています。その一方, 現在でもテンシオメータなどの古くからあるアナログ的なセンサーも生産現場などで活躍しています。しかしなが

ら, こうしたセンサー類にはいまだ高価なものが多く, より一層の低価格化と利便性の向上が求められています。

水土・環境を計測するためのセンサーや情報発信機器の開発の取組み, 各種センサーを利用したフィールドのモニタリングの取組み, 創意工夫により自作した機器や装置, などに関する報文を幅広く募集します。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
 - ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 9, 12月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円 (農業農村工学会員に限る)
学生会員 (院生含む) 8,500 円 (農業農村工学会員に限る)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌, 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は, 2011年3月末に Vol.10, No.1 が発行されます。

本ジャーナルは 2009年12月より, トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に, SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また, 世界 13 カ国から Editor (23 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, 年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局: Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL: +81-92-642-2909 FAX: +81-92-642-2914

E-mail: shinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13 カ国から 23 名

• Editing Board 35 名

• Managing Editors

Chief Management Editor: Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture
University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering,
Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Dept. of Bioenvironmental Systems, Engineering Na-
tional Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural Sys-
tem Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま
す。

地域環境工学シリーズ8

食と環境をまもる水田づくり

— 新しい水田整備工学 — (社) 農業農村工学会発行

目次

- | | | |
|-----------------|--------------------------|---------------------|
| はじめに | 6. 低コスト化のための関連技術 | V. 水田の多面的環境機能の回復と強化 |
| I. 水田整備のあゆみと課題 | 7. 21世紀の大区画水田 | 1. はじめに |
| 1. わが国の水田整備のあゆみ | IV. 中山間地域の水田整備 | 2. 水田圃場整備における生態系の保全 |
| 2. 新しい水田整備の背景 | 1. 固有の地域条件と水田整備の必要性 | 3. 歴史的な水田景観の保全 |
| II. 水田整備の基礎 | 2. 中山間地域における圃場形態の特徴と整備課題 | 4. 土・水環境の保全 |
| 1. 農地組織 | 3. 中山間地域に適合的な圃場形態 | 5. 新たな農村景観の創出 |
| 2. 土壌・土層改良 | 4. 維持管理労働と区画の形状 | VI. 土地利用秩序の形成 |
| 3. 換地 | 5. 安全性の向上と圃場形態 | 1. 土地利用秩序形成の課題 |
| 4. 計画 | 6. 圃場整備計画作成支援システム | 2. 土地利用秩序形成のための換地手法 |
| III. 大区画化水田整備 | 7. 維持管理も考慮した計画・整備の必要 | 3. 農地と宅地の利用調整 |
| 1. 大区画化という課題 | | 4. 社会資本整備等のための用地捻出 |
| 2. 大区画化の現状 | | |
| 3. 大区画水田の農地組織 | | |
| 4. 諸外国の大区画水田 | | |
| 5. 大区画水田での耕作 | | |

A5判 約210ページ 定価3,300円(税込・送料学会負担)
会員特価2,900円(税込・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社) 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494

地域環境工学シリーズ9

食の安全と地域の豊かさを求めて

— 新しい畑整備工学 — (社) 農業農村工学会発行

目次

- | | |
|-----------------|----------------------|
| I. わが国の畑作の歴史と特徴 | 3. 畑地の整備手法 |
| 1. わが国における畑作の歴史 | III. 畑整備の今後の展開方向 |
| 2. 営農形態別の特徴 | 1. 畑整備における技術的課題 |
| 3. 畑整備の現状 | 2. 新たな畑整備の展開 |
| 4. 国際情勢、社会情勢の変化 | IV. 畑整備と地域環境管理 |
| 5. 中山間地域における畑整備 | 1. 土壌侵食防止 |
| II. 畑整備の基礎 | 2. 持続的農業のための土管理 |
| 1. 作物と水 | 3. 畑作と環境保全 |
| 2. 畑地基盤と畑作農業 | 4. 環境との共存をめざした畑作の将来像 |

A5判 約210ページ 定価3,300円(税込・送料学会負担)
会員特価2,900円(税込・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社) 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494